

善勝寺だより

ZENSHOJI DARIORI

善勝寺だより第134号
令和8年3月9日発行
〒365-0013 埼玉県
鴻巣市境147 善勝寺
TEL 048-569-0810
発行責任者 明見弘道

雨中の春樹萬人の家

待ちに待った恵みの雨がようやく降りました(二月二十五日)ホースで水をまいてもほとんど効果ありませんでしたが、自然の雨は一日で染み込みました。これで境内の木々もホツとしていくことでしょう。

「あめあめ降れ降れもつと降れ」と口ずさんでいたら、右の句を思いつきました。雨の春景色の美しさを詠んだもので、唐の時代王維が詠んだ詩の一部です。「雨中にけふる春の木々は万戸の家ごとに生い茂っている」との注がありました。

本山詣でのご案内

さて、平成九年には当寺の本山であります京都妙心寺の興祖「微妙大師」六百五十年遠諱法要が行われます。

もうすでに様々な行事が行われておりますが、全国の妙心寺派各寺院からも団体参拝が始まります。善勝寺としては、今年十一月二日と三日を予定しております。参加ご希望の方、またお問い合わせの方には、後日詳

しい日程表などお送り致します。おおよその計画は、十一月二十日十四時三十分「花園会館」集合。チェックイン後仏殿・法塔など見学し、入浴後十八時頃から京料理での夕食。三日は七時大方丈にて参拝。朝食後山内寺院を散策し十時に解散の予定です。

会費として一人一万円、そのほか、ご自宅から京都花園会館往復の交通費は各自の負担となります。

せっかく京都まで行くのなら、もう一泊して奈良にも行きたい。大阪の親戚の家に寄って帰りたい。などなどご自由に計画して下さい。

全室ツインルームを予約しました。お一人でのご利用もできます。もちろん、ご夫婦・ご家族での申込も歓迎します。

全体で二十名以上三十名以内の参加を予定しております。申込順で受け付けて、三十名となった時点で締切と致します。希望される方はご連絡ください。またお問い合わせは電話またはメールでどうぞ。

temple@zensyoji.or.jp

「ご案内」 春季彼岸会

左記の如く彼岸法要を厳修致します。

檀信徒の皆様、多数ご参拝下さいますよう謹んでご案内申し上げます。

記

三月二十日(金曜日)

午後二時より

彼岸法要

法要終了後

住職の話

三時頃終了予定。

塔婆を申し込まれた方は供養料と併せて一基六千円を、

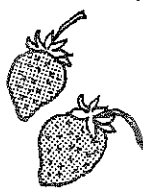
また、二十日の彼岸供養並びに法話会は、塔婆をお申し込みでない方も彼岸供養料(三千円程度)をご用意いただきたく存じます。

彼岸の塔婆は、電話かFAXまたはメールでお早めにお申し込み下さい。

temple@zensyoji.or.jp

その時、施主名のほか戒名、お参り予定日もご記入願います。

住職



絶望名言 古今亭志ん生

貧乏はするもんじゃありません、

味わうものですか。

今回は、昭和時代の有名落語家「古今亭志ん生」さんです。

明治二十三年神田の生まれで江戸っ子です。十五才で家出して落語家を目指しますが、なかなか芽が出ません。若いうちにはともかく、どんどん年をくっていつても芽が出ない。結婚して子供ができて芽が出ない。そんなことで食べていけないかというと、もちろん食べていけません。借金をしたり夜逃げをしたり。

家賃も敷金もいらぬ長屋があると、いので喜んで引越していくと、もともと池か沼だったところがゴミ捨て場になって、その上に建てた長屋だから湿度がすごい、大雨が降るとたちまち浸水する。誰も住む人がいないので、こんなところでも人が住めるんだという見本にするために、ただで志ん生一家を住まわせたわけです。

ジメジメしているから、天井が真っ黒に見えるほど蚊がいます。他にも蠅がいて、油虫がいて、ネズミがいる。なかでもすごいのがナメクジで、壁一面ナメクジが這った跡で銀色に光りかがやいている。



この「ナメクジ長屋」にいた頃は、なにしろ貧乏ですから志ん生は痩せていて身なりもよくない。ついたあだ名が「死に神」「ウワバミの吐き出しれ」とも呼ばれたそうです。

そんな志ん生の絶望名言が「貧乏はするもんじゃありません。味わうものですか。これは『びんぼう自慢』という志ん生の自伝の中の言葉です。

貧乏を「自慢」できるようなことは、正に名人芸ですね。

さて、この言葉、なんとなくわかるような、わからないような。「するもんじゃなくて味わうもの」とはどういうことなのでしょう。「貧乏」を他の言葉に置き換えてみると、少しわかりやすくなるかもしれません。

たとえば「食事」。「食事はするもんじゃありません。味わうものですか」

これだとよくわかりますね。食事って急いでいたり、他のことを考えていたりして、味わっていないことがありますよね。食べなきゃいけないから食べているだけで、味わっていない。味わうためには食事にちゃんと意識を集中して、一品ずつ丁寧に食べる必要があります。ということは、苦痛でしかない貧乏をじっくり味わうということになるのです。なぜ志ん生はそんなふうにするのでしょうか。

これはあくまで私の考えですが、志ん生ほどすさまじい貧乏だと、もう目のそらしようがなかったのではないのでしょうか。

そうすると、むしろ積極的に貧乏をみつめ、味わうほうがまだしも救いになったのではないのでしょうか。

貧乏の面白さを見つけ、それを笑い、芸のこやしにしていく。

そうするほうが、むしろ貧乏の苦しさをから逃れたのではないのでしょうか。

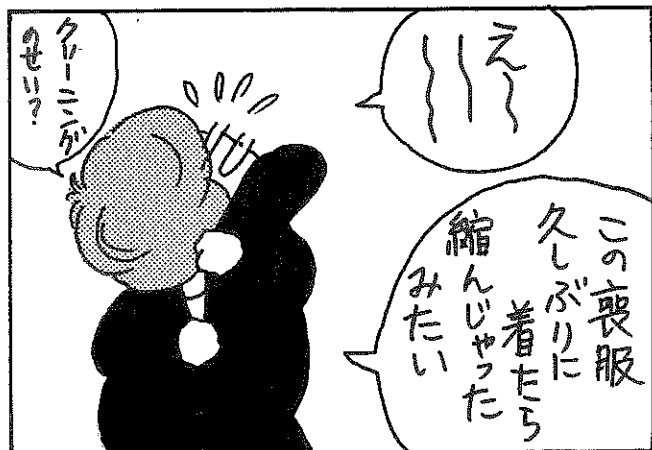
絶望についても、もしかすると、同じようなことが言えるのかもしれない。つまり絶望を知的好奇心を持って観察し、面白がり、そこから何か得ようとする、そうすること自体が絶望による苦悩から心を救うことになるのかもしれない。

NHKラジオ深夜便「絶望名言」

頭木弘樹氏の文章を要約抜粋しました。



ゼンツョカツ日記



持費納入のお礼とお願

昨年十二月に、令和八年度分護持費の納入をお願い致しましたところ、早速大多数の方にお納め頂きました。お礼申し上げます。

尚、当寺に墓地（合同墓地を除く）を取得されておられる檀徒の方、また本堂内にご遺骨を預けておられる方で、令和八年度分の護持費がまだ未納の方は三月末日までには必ず納入下さいませようお願いします。

過年度の護持費が未納の方は、過年度分と合計した金額を納入して頂きますようお願い申し上げます。

当寺よりの領収書は発行致していません。お振り込み頂いた時の受領書をもって領収書に替えさせていただきます。

コンビニでの納入は、三月三十一日までしか通用致しません。

四月一日以降は、郵便局での納入となります。

今年も、コンビニと郵便局どちらでも通用する用紙にしましたが、会計処理の面ではコンビニの方が楽ではありません。近くにコンビニがない方は、今後はできるだけコンビニからにして下されば有り難いのですが、ご協力のほどお願い致します。

微笑の地蔵

昨年十一月、お父様の三回忌法要に合わせ当寺の合同船に納骨された方から、一冊の本を頂きました。「微笑み地蔵」というタイトルの絵本です。

その場でさっと目を通し「いいご本ですね」と言ったところ、「よかつたら何冊でもお持ちします」とのこと。

その本は十五年ほど前、故お父様が自费出版されたものでした。

ちようどこの善勝寺便り前号に、「オニコニコ腹立てまいソワカ」のことを書いたところで、タイミングがよいと思ひ五十冊ほど頂き「お彼岸の施本」にすることを致しました。

ご案内 本山参拝のしごと

妙心寺の開山は無相大師（関山慧玄）で、その唯一の弟子（法嗣といいますが）で妙心寺の代二世が微妙大師（授翁宗弼）であります。この大師号は昭和二年に昭和天皇から賜りました。

微妙大師は三十九歳で大徳寺大燈国師の元で出家され六十五歳で妙心寺の住持となられ、妙心寺の草創期を支え、四人の弟子を育て、妙心寺の基盤を作り上げた方です。そこで妙心寺では、「興祖微妙大師」と崇められています。

南北朝時代西暦一千三百八十年三月二十八日、八十五歳で遷化されました。来年の三月で六百五十年となり、法要（遠諱）が営まれます。

全国の妙心寺派の寺（およそ三千五百ヶ寺）から本山参りを企画されております。

善勝寺は下記の如く本山団参を行います。ご興味おありの方はお早めにお申し込み頂きますようご案内申し上げます。

当寺は檀信徒が広範囲に渡りますので、現地集合現地解散と致しました。



ぜひ参加下さい



大本山妙心寺団体参拝日程

日程 令和八年十一月二日～三日

集合場所 京都花園会館ロビー

集合時間 十一月二日十四時三十分

チェックイン後 仏殿・法堂見学

大浴場入浴後、十八時夕食

参拝 三日七時 大方丈にて

朝食後、山内寺院拝観

解散 十時チェックアウト後

花園会館ロビーにて解散の挨拶

募集人数 二十名以上、三十名まで

参加費 一人一万円

参加者一人あたりの経費に関することを書いておきます。

花園会館一泊二食 14,300円

諷経料（フギン） 3,500円

宿泊税 400円

合計 18,200円

善勝寺援助金 8,200円

参加者一人の会費 10,000円

会食中の飲み物などは善勝寺が負担。花園会館チェックイン前と解散後は、参加者それぞれの負担となります。

編集後記

*『善勝寺だより』春彼岸号をお届け致します。

*今年の彼岸法要はご案内のとおり、三月二十日（金曜日）午後二時から行います。

*もちろん、お彼岸は一週間あります。お墓にはいつお参り下さってもいいのですが、ご都合つく方は二十日にお参りいただき、ご一緒にお勤めいたしましょう。

*墓参用の生花のことですが、寺での販売は八月十三日施餓鬼会のみです。隣のコンビニ「ローソン」では、常時販売しています。ご利用下さい。

*次回「善勝寺だより」お盆号は、六月の下旬発行予定です。

*施餓鬼会、お盆に関することは、

次号『善勝寺だより』にてご案内致しますので、これをお読み頂いたうえ、お問い合わせ下さいませようお願いします。

弘道

『笑顔になると幸せが寄ってくる

いっばい いっばい』 微笑み地藏より

